

1 イメージを豊かに

ビデオを見て、豊かなイメージをもつために、『世界と比べてみた日本 ⑤産業1 ～鉱工業～』を例として、視聴の仕方の工夫について考えてみたい。

2 予想してからビデオを見よう

授業の中で予想を立て、それを検証するためにビデオ教材を活用することが大切である。子どもが自分で考えた予想が正しいかどうか考えながら、ビデオを視聴するようになると、ビデオにより集中することができ、イメージが鮮明になる。

たとえば、子どもが石油、石炭、鉄鉱石は世界のどこで産出し、どこから日本に運ばれてくるか、予想してみる。黒板に掲示した世界地図を見ながら、それを掘り所にどこから来るか考えてみる。このとき、あわせて石油や鉄鉱石を原料としてどのような工業製品が作られるか思い出す。石油からプラスチック、ナイロンなどが作られること、鉄鉱石と石炭から鉄鋼が作られることを確かめる。そして、それらの原料が地球上のどこで産出し、日本に運ばれるか考えてみる。子どもからは様々な予想が出されるに違いない。その後、ビデオを視聴し、これらの資源が産出する地域を確認する。ビデオ

から石油は西アジアの地域から、石炭は中国やカナダから、鉄鉱石はオーストラリアからそれぞれ輸入さ



ビデオ教材「カナダ石炭の露天掘り」

れることが分かる。

また、自分たちが毎日使う電力について、どのような発電所で作られているか、予想し

てみる。このとき、発電の仕方には、水力発電、火力発電、原子力発電、風力発電、地熱発電などの種類があることを確かめ、いずれの発電が一番たくさんの電力を作り出しているか予想する。自分たちの住む地域に一番近い発電所はどこにあるかについても同時に考えてみる。その後、ビデオを視聴し、火力発電所の発電量をもっとも多いことを確かめる。



ビデオ教材「火力発電所」

3 地図帳でイメージをふくらませよう

ビデオ視聴後には、ビデオを見て分かったことを地図帳を活用して確かめ、イメージを豊かにすることが重要である。これによって、子どもが場所に対するイメージをもつことができるようになる。

日本の工業地域についてビデオを視聴し、4大工業地帯がさらに広がり、太平洋ベルトが形成されていることが理解できたならば、地図帳で水島コンビナートの様子を確認してみる。そうすると、水島が瀬戸内工業地域の一部であり、そこには、製鉄、製油、自動車などの工場があることが分かる。

このように地図帳と併用することにより、ビデオで見た内容を位置をともなったイメージとして捉え直すことができる。



帝国書院「楽しく学ぶ小学生の地図帳」(初訂版) p.24